



⑤ B-29墜落地点の碑
(輝北町上百引)

昭和20年4月29日、1機の米軍爆撃機B-29が日本の戦闘機の攻撃により輝北町唐鎌地区に墜落。駆けつけた住民が竹やりで遺体を突こうとしましたが、「死んだものに敵見方の区別はない」という声があがり、その後死体を丁寧に葬り、唐鎌の墓地に埋葬しました。



⑥ 桜花の碑
(野里町)

旧野里小学校跡地に、昭和53年元隊員によって建てられました。「桜花」とは、特攻作戦に用いられた通称「人間爆弾」の名称です。碑文は、当時海軍報道班員として、野里の地で特攻隊員と起居を共にした作家山岡荘八氏により刻まれています。



⑦ 進駐軍上陸地の碑
(高須町)

太平洋戦争が終結して間もない、昭和20年9月4日、高須町「金浜海岸」に米軍が上陸。同時に陸揚げされた何十台もの軍用トラックで市内を通り抜け基地内に入りました。写真は、金浜海岸に接岸する米軍海兵部隊です。



⑧ 特別攻撃隊戦没者慰霊塔
(今坂町)

海上自衛隊鹿屋航空基地を見下ろす今坂町の小塚丘に建立されました。塔の銘板には、特別攻撃隊戦没者908名の氏名・出撃年月日などが刻まれています。毎年、桜の咲き誇る4月上旬に、全国より多くの参列者が訪れ、戦没者追悼式が行われます。

鹿屋に残る 戦跡マップ



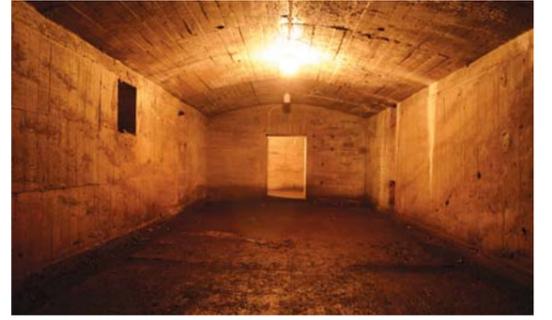
① 串良海軍航空隊出撃戦没者慰霊塔
(串良町有里)

串良海軍航空隊基地の跡地に建立され、現在の桜並木が続く一直線の道路が滑走路の跡です。慰霊碑の題字は、当時の佐藤栄作内閣総理大臣の謹書になります。慰霊塔を含む公園は、世界平和に貢献する祈りを込め平和公園と命名されました。毎年10月に戦没者追悼式が行われます。



② 地下壕電信司令室跡
(串良町有里)

串良海軍航空隊は、太平洋戦争の末期、教育航空隊として開隊しましたが、昭和20年3月1日から特攻隊の基地となりました。この地下壕は、串良海軍航空隊基地の電信司令室として、機上の特攻隊員との連絡を取っていた場所です。※私有地のため、見学には事前の連絡が必要です。



③ 笠之原海軍航空基地跡
(笠之原町)

笠之原の農家から約40haの農地を借り、地区の在郷軍人や青年たちの奉仕作業により大正11年にできました。その後、軍が使用しましたが、戦争末期の集中爆撃により基地は全滅。唯一現存しているのは、コンクリートの地下道入口のみです。



④ 田崎小学校慰霊碑
(川西町)

昭和20年3月18日以降、連日のように市内各地に空襲が繰り返され、終戦間際の8月12日まで続きました。犠牲になった市民も少なくなく、田崎小学校には、4月8日の空襲で殉職された教師等犠牲者の慰霊碑が建てられています。



進駐軍上陸地の碑建立メンバー 立元 良三さん

戦争は本当に怖く、そして命が惜しいと思うものです。二度と過ちを繰り返さないために、私は語り部として戦争を知らない子や孫たちにしっかりと伝承しなくてはならないと思っています。

昭和20年3月早朝、空襲警報のサイレン、初めて高須に敵機が来襲しました。操縦士の顔がはっきり見えるほどの超低空による機銃掃射。初めての空襲のため、面白がって見ましたが、近くの子どもに直撃。各地で死傷者が出たと聞き、空襲の怖さを思い知り、次の警報からは防空壕に逃げ込むようになりました。翌日には、次々に爆弾が投下。防空壕から出ると数m離れた場所に、深さ10mほどの穴ができていました。実際に戦争を体験すると、

忘れぬ記憶
高須は戦場だった



鹿屋航空基地史料館職員 野添 博志さん

近年、特に若い人たちが命を粗末にしていると感じるようなニュースを耳にします。私は、「命の尊さ・平和の大切さ」を多くの若い人たちに伝え、命のありがたさを理解した人が広がり、不幸な事件が少しでもなくなるような話をしていければと考えています。

命の尊さ、平和の大切さを多くの人に伝えたい
私は、鹿屋航空基地史料館の職員として、多くの方々に戦争に関する話をしてきましたが、根底にあるのは「命の尊さ」を伝えたいということです。戦争には、鹿屋の地から飛び立った特攻隊員を始め、命に関する多くの様々な悲劇があります。戦争で起こった多くの悲劇を伝えることで平和について考える一助になればと願っています。